

システムの名称：NEO-BASIC IV

第1章 システムの基本的な考え方

NEO-BASIC IVは、木造住宅の構造躯体変形によるクレームを排除し、顧客満足度を上げるために構造躯体を集成材化している。集成材に断面欠損が生じる部分については金物接合を採用し、構造躯体の耐久性向上を図っている。

また、構造材・床・壁・間仕切パネルはAQ認証プレカット工場で生産するため、現場での生産性向上を図るとともに、工期短縮と高性能・高品質住宅の安定供給を可能としている。

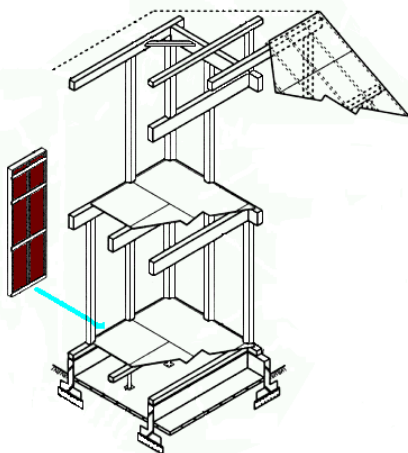
長期優良住宅の水準

①構造躯体の劣化対策	⇒	品確法等級3相当
②耐震性	⇒	〃 等級3
③維持管理・更新の容易性	⇒	〃 等級3
④省エネルギー性能（区分Ⅳ）	⇒	〃 断熱等性能等級5 〃 一次エネルギー消費量等級6
⑤35年以上の保守計画や修繕計画		

第2章 システムの概要

2.1 NEO-BASIC IVの概要

- (1) 主要構造材はAQ認証プレカット工場で加工された集成材を使用し、生産及び施工の合理化を図っている。
- (2) 木材に断面欠損が生じる部分については、金物接合を行い、壁・間仕切りパネルを導入する。そのため、品質にバラツキのない工場生産化率の高い短工期・高生産性タイプの住宅を安定供給できるシステムとする。
- (3) 部材については、基本的にAQプレカット部材と工場生産された羽柄材または壁・間仕切りパネルを利用し、サイズ・仕口を統一することにより、省力化を図るために、標準的な建物で、上棟後の造作大工の人工数は、1.2人工/坪以下を目標とする。
- (4) 現場における生産性を向上させるために、加工・生産・建方・仕上げまでをマニュアル化した工程管理により、コスト削減と工期短縮を図るシステムとする。
- (5) 住宅性能診断士ホームズ君「構造EX」（認定番号P04-02）を用いた構造設計による安全確認を行う。
- (6) NEO-BASIC IV 構造躯体概要図

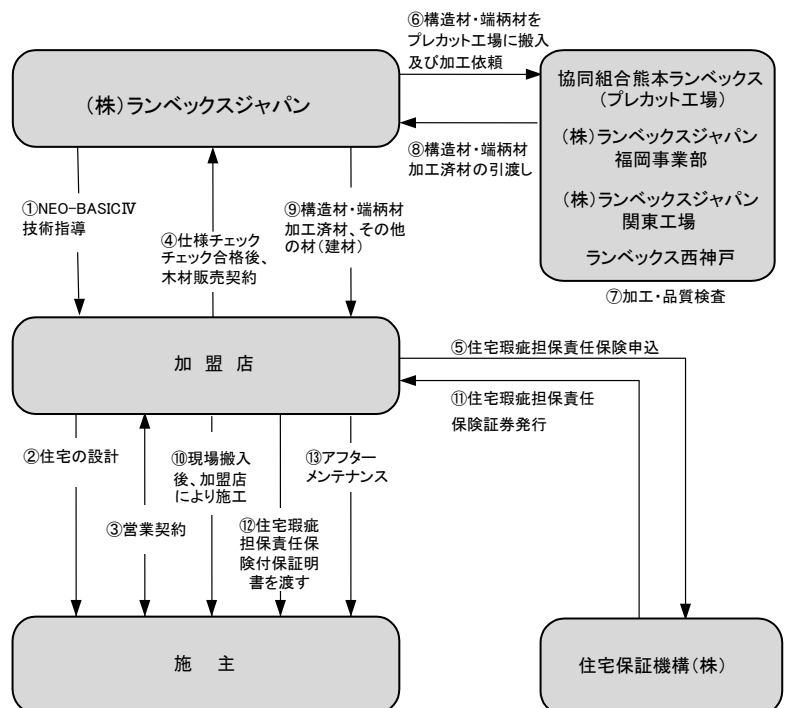
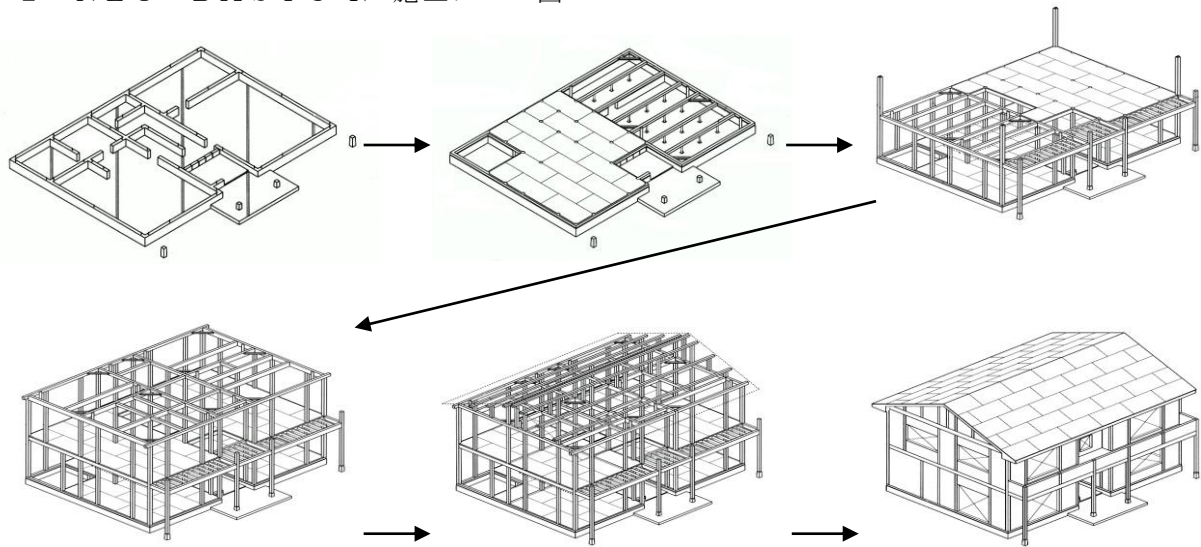


構造躯体の樹種及び寸法

部材(部位)名	樹種名	構造用集成材又はKD材	寸法
土台	オウシュウアカマツ		105×105・120×120
大引根太	オウシュウアカマツ、杉		105×105
柱	大壁	通し柱	オウシュウアカマツ、ダフリカラムツ、杉、米松
		管柱	オウシュウアカマツ、SPF
	真壁	通し柱	檜、杉
		管柱	檜、杉
桁・梁(胴差)	オウシュウアカマツ		105×150~420
母屋・棟木・隅谷木	杉、米松、オウシュウアカマツ、SPF		105×105~180
小屋束	杉、米松、オウシュウアカマツ		105×105
耐力壁面材	構造用合板、MDF、石膏ボード		9mm厚
	構造用合板		24mm・28mm厚

※土台、大引、1階柱等の部材には上記の樹種による「ランベックス防腐・防蟻処理構造用集成材-2(2種-AZN)(認定番号AQ-030-C2-3)」を使用する。

2. 2 NEO-BASIC IV 施工フロー図



第3章 供給体制について

- (1) 営業・設計・施工は、住宅保証機構(株)に登録しているハウスメーカー・ビルダー・工務店によって行う。
- (2) 登録業者は、施工マニュアルや工事別チェックシートをもとにして、施工の均一化を図る。

第4章 維持管理について

4. 1 維持管理補修サービス
 - 定期点検の実施
 - 1年目、2年目、5年目、10年目に定期点検を実施し、以降は5年毎に有償にて実施。
4. 2 保全計画書
 - 保全計画書は次の項目から構成されたものを作成する。
 - ①対象部位
 - ②保全期間及び、保全対象となる現象
 - ③適用外の内容
4. 3 その他
 - 住宅瑕疵担保履行法による資力確保の措置として、住宅保証機構株式会社の住宅瑕疵担保責任保険を活用する。